

## 統合か排除か？

この記事ではカナダの問題について扱っているが、ここで論じている問題は大きな移民コミュニティを持つ全ての国にも関係している。

私は、トロントの都市景観を専門に扱っているスペーシングという雑誌をいつも楽しく読んでいる。様々な記事が掲載されており、上手な文章で書かれていることも多く、写真やイラストも素晴らしい。また、政治思想も進歩的であり、自転車や歩者に対しても概して敏感であり、企業が公共の場を支配することにも反対している。

共通する価値観や関心はあるが、同誌の春号に掲載された「一体感を生み出そう」と見出しの付いた「プレイス・メイカー」特集を読み、私は混乱した。記事には最近トロントの財団から社会正義関係の奨学金を獲得した主張者兼社会活動家のある女性について書かれてあった。この女性についてのみを論じるつもりはない。彼女が真面目な人間であり、自分のコミュニティをより良い場所にするため信念を貫き頑張っていることは誰もが認めている。いずれにしても、彼女は特別なことは何も述べていない。そして、あまりにも多くの人が彼女の考えを無批判的に認めていることこそが私を混乱させている。

その記事では、カナダの多様な「コミュニティ」が「一体感」を感じられるようにする必要があり、「社会統合は沈みゆくタイタニック号で椅子を並び替えることではなく、新しい船を造ることである」という明確なテーマが述べられている。

彼女はこの事について、地域集会での出来事を例にあげている。あるパンジ

ャビ語を話す男性が図書館の近くにある唯一の公衆トイレが夕方の五時に閉まるので自分や友達には夏の夕方には地元にある公園の使用が制限されている、と彼女に話した。それに対して、彼女はこの問題について集会に出席していた市議員に伝えますと答えた。彼女が通訳になり、政治家に問題を提起して、その政治家はこの問題に関して何かできることが無いのか検討するとしっかり約束をしたというのだ。

彼女によれば、この瞬間に問題を提起した男性のエンパワーメントが行われたという。なぜなら、彼は英語を話さないが「何を述べ、何をを行うかが重要である」とその男性に示したからだ。彼女はこの出来事には「多様性と多元主義の問題が示されており、誰も参加していないことが問題ではなく、彼らが参加している場所に私たちがいないことが問題である」と大まかに結論づけている。移民コミュニティは、モスクや公民館、公園、自宅などで政治について議論していると彼女は述べる。また、彼女はその特定の地域集会に出席していた政治家は「非常に親切な人ではあるが、有権者たちの言っていることが理解できなければどうすることもできない」とも述べている。「つまり、住民たちの参加を求める仕組みを構築するのではなく、私たちが実際に

努力して、コミュニティの場所を探して、彼らが自分たちの言葉で話していることに耳を傾けるのです。面倒で困難なことではあるが、多元主義は複□なのです」。さらに、そうすることによってのみ「私や子供たち、その他の移民、難民、社会の周縁に追いやられた人たち、有色人種」が「一体感」を感じることをできる社会を築けるのですと彼女は話す。

彼女の言うこの素晴らしい出来事に□して否定的なことは言いたくはない。それに、トイレを見つけることが何よりも重要な状況に陥ったことのある人はたくさんいるし、公衆トイレがより長い時間開放されることは有益であると多くの人が同意するだろう。

しかし、これがエンパワーメントなのか？政治家にトイレが閉まっていると伝えて、何かできることが無いか検討してみるという約束してもらったことなのだろうか？また、彼女やその他の大勢の人ほどのような「多元主義」のモデルを奨励しているのだろうか？トロントには300万人が住んでおり、100以上の言語が話されている。市の公式ホームページでは140の異なる言語で情報を提供している。トロント市選出議員の小さな一団が公民館や公園、自宅などはもちろん、何千ものモスクや教会、寺院、シナゴークを訪問して、住民たちが「自分たちの言葉で話していること」に耳を傾けることが可能もしくは望ましい事であると本当に思えるか？

このような考えはあまりにも不条理であり、私はそれを支持している人たちも確信は無いのだと思う。彼らが本当に考えているシナリオは、前述の出来事で実際に行われていることなのだと思う。つまり、英語を上手に話す地域社会のリーダーがスポークス・パーソンに選ばれたりまたは選んだりして、自分のコミュニティの人たちに何が必要で彼らが何を望んでいるのかを考えて、それを政治家に伝えるということである。実際に行われているエンパワーメントは、「自分のコミュニティ」の正式な代表者になったり、公的資金を受ける地域の機関で有給職員になるたくさんの活動家たちのエンパワーメントと表現したほうがより適切かもしれない。

これらの機関の大部分が提供している有益なサービスを軽視していないし、そこで熱心に大変な仕事をこなしている職員たちに意義を申し立ててもいない。しかし、この「エンパワーメント」のモデルに対しては全く賛成しない。自分の住んでいる社会で使われている言葉の話さないで一体どうやって彼らのエンパワーメントを行うのか？カナダの中で英語が公用語として使われている地域では行政や政治、商売、ビジネス、主要メディア、高等教育まであらゆる形態において英語が言語の力を持っている。また、住民たちが実際に使われている言語である英語を習得しない、さらに習得する必要も無いと想定する社会モデルを主張しながら、どうしてエンパワーメントや統合を語り、一体感を生み出すことができるだろうか？このモデルが奨励しているのは統合やエンパワーメントではなく、分裂や排除、無力感である。

誤解を避けるために述べておくが、英語を話さない人たちのために基本的なサービスを彼らの言語で提供していることは素晴らしいと思う。市のホームページが140言語で情報を提供していることや、医療または法制度を利用する際に支援が必要な人のために通訳者がいることにも満足している。また、いろいろな国から来た人たちが暮らす都市での生活も気に入っている。

しかし、異なる言語を話し、それぞれが切り離されていて、通訳者を介してのみより大きな社会の構造に意思を伝える明確に区別された「コミュニティ」のビジョンを主張するリーダーたちは有益無害である。彼らが主張しているのは多 $\square$ 性ではなく、堅固な分裂である。

**悪気はないのかもしれないが、住民たちが自分の所属する民族や宗教のコミュニティ内のメンバーとしか政治的及び社会的に関係を持たない状況を助長及び維持して、リーダーたちは実際にはディスエンパワメントしているのだ。彼らが主張しているビジョンに彼ら自身が固執していないのは明らかである。リーダーたちは英語を習得しており、政治家たちが自分のコミュニティを訪問して話を聞いてくれるのを待ったりはしない。彼らは、活動が行われている場所へ行き、英語で要求する。**

民族や言語、宗教によって区別された「コミュニティ」から成る社会は、実は本物のエンパワメントとは全く正反 $\square$ の概念である。この概念では、自分の民族グループへのサービスを増やすための運動こそが「改善」であるとしている。そう考えてみると、この概念は非常に偏狭であり保守的であり、屈辱的さえもある市民の在り方についてのビジョンである。

民族的及び宗教的な背景に関係なく、住民たちが共通の目的のために協力した場合のみ本物の変革とエンパワメントは達成される。例えば、低賃金や劣悪な労働条件などは多くの移民やカナダ生まれの労働者たちを団結させる共通の問題である。労働運動は、労働者の生活改善を目指す組織的な主張である。この運動は成功しており、労働組合が労働者たちの背景に関係なく彼らの間に連帯感を生み出している。その反面、雇用主たちは労働者たちを人種や言語、宗教によってお互いを対立させて、常に分割統治を行おうとしてきた。労働者たちとより多くの共通点を持っているのは同じ民族グループや宗教に所属しているが、搾取をする雇用主か？ それとも、全く異なる背景を持っているが、職場で同じように搾取されている他の労働者か？

その他の問題については、ハーパー政権は地球温暖化対策の妨害や行政サービス民営化の推進、企業のグローバル化を推進するあらゆる対策への署名、外交問題におけるブッシュ政権への緻密な支援などで忙しい。

このような状況の中で、民族「コミュニティ」は上記の問題に $\square$ して関心を持たないし、自分たちの周りで起こっている議論にも関与しな

いと想定するようなビジョンを支持すべきか？ また、これらの問題は政治家が地域集会を訪れて、住民たちの問題に耳を傾けて「できることがないか検討する」ことを想定するモデルで対処できるのか？

真剣に考えるべきだ。企業幹部や政治家など権力を握っている人間が自分の私利私欲やイデオロギーに反することに「耳を傾けたこと」があるだろうか？ さらに、直接的且つ強引なやり方で要求を行うために結集された対立する大衆運動以外のものに彼らが屈したことがあっただろうか？

私自身移民として、また英語が母語ではない一人の人間として、移民は自分の「コミュニティ」に影響を及ぼす偏狭な事柄にしか興味がないと言われると非常に侮辱された気持ちになる。無心論者として、また世俗主義者として、カナダのような世俗社会において教会やモスク、寺院を中心に政治活動を行うことが望ましいと言われると動揺してしまう。そして、資本主義の排斥運動を信じる社会主義者として、エンパワーメントとは政治家がトイレを一時間長く開放することについて何かできることはないか検討してみると約束することだと思っている人たちには感心しない。

私たちには住民をコミュニティに隔離するビジョンではなく、本物の変革を目指して戦うために彼らを結束させるビジョンが必要なのだと思う。これが私の考える沈みゆくタイタニック号で椅子を並び替えるのではなく、協力して「新しい船を造ること」の意味である。

著者: ウリ・ディマー (Author: Ulli Diemer)

2008年8月10日

翻訳: 津田 秀一郎 (Translated from the English by Shuichiro Tsuda)